

試合（ターゲット）のときの諸注意

2003. 11. 3作成

2005. 5. 26改訂

2010. 6. 04改訂

文責：田代智恵子

○行射について

・行射時間は、50m以下の場合3射2分、60m以上の場合6射4分が標準（これと違う場合もあるので、試合の説明をよく聞くこと。）。

・行射は信号とブザーによって管理されている。

信号が赤のときは行射してはならない。

1 立ちの場合、このような流れになっている。

ブザー2回 シューティングラインに入れ（ムーブアップ）

※矢をつがえてもよい。弓を上げたり弦を引いてはならない。

※障害者の場合、予め審判に申し出て、ブザーが鳴る前にシューティングラインに入ることが出来る。

↓

10秒後（障害者の大会は20秒のことがある）

↓

ブザー1回（信号 赤→青）射ってもよい

↓

残り30秒（信号 青→黄）

↓

ブザー3回（信号 黄→赤）矢取り

※**ブザーが4回以上鳴っていたら**、直ちに行射を止めること。（立入禁止区域に知らずに人が入ってきたことが多い。）

・矢をすべて射ち終わったら、速やかにシューティングラインから下がること（車椅子の場合は、弓を膝の上に置くことでシューティングラインから下がったとみなされる。）射つ矢がないのにシューティングライン上でスコープなどを覗いてはならない。シューティングラインから下がってから覗くこと。

→試合進行の妨げになる。

・行射中にシューティングラインよりの側に落ちた矢は射った矢とみなされるので、注意すること。但し、3mラインの赤い線から手前側の矢は安全面を確認したうえで、自分の行射時間中に回収できる。

○もしも**弓具破損**が起こったら

- ・慌てずにすぐに手をあげて最寄りの審判を呼び、「弓具破損です。」と申し出る。
- ・審判には、10分以内に修復できるか、今回の行射であと何射残っているかを告げる。
- ・眼鏡やコンタクトレンズの異常等、射手にとって尋常でない状態は弓具破損扱いに出来る（過去に、鼻血が弓具破損扱いされたのを見たことがある。）。弓の部品や矢、タブなどを置き忘れた場合は、弓具破損とは認められない。
- ・修復に与えられる時間は正式には15分だが、10分のことが多い。それ以上かかるようだと棄権しなければならない。
- ・行射出来る状態になったら、審判に申し出る。補充の行射時間は1射につき40秒与えられる。信号機・ブザーに従って行射する。
- ・**的紙がはがれたり、的が倒れたりしたとき**なども、直ちに手をあげて審判に申し出ること。

○**看的（採点）・矢取り**について

- ・採点は相互看的。自分の点数を他の人につけてもらうわけだが、試合の主催者からもらうスコアカードは試合終了後に提出するので、手元には残らない。予め控えのスコアカードを用意して、必ず自分の点数を記録しておくこと（得点記録者や自分の計算間違いもチェックできる。）
- ・採点が終わるまで刺さっている矢や標的面、畳には触れてはならない。
- ・**素点（一本一本の矢の得点）は自分で訂正できない。**もし書き損じをして訂正が必要になったら、矢を抜く前に同的の選手全員で正しい素点を確認した上で訂正し、同的の選手全員のサインをもらうこと。**矢を抜いてしまうと、素点の訂正はできなくなる。**
合計点の書き損じは自分で訂正してよい。
→自分で素点の書き変えとその点数は認められず、0点になる。不正行為と見なされる恐れがあるからである。
- ・点数をつけ終わったら、毎回「これでよろしいですか。」と言って、スコアカードを相手に見せること。
- ・矢取りする前に的中孔にチェックをするのが普通（的紙交換直前や最終回についてはチェックは不要。）。
→的中孔チェックをきっちりしていれば、跳ね返り矢があったときその得点が認められる。
- ・矢取りの時は「矢取りしてもいいですか。」または「矢取りします。」と他の人に声をかけてから抜く。
→その**的の矢の素点**がすべて正しく記録されてから矢取りをする必要があるため。また、安全のためでもある。
- ・**それ矢を出して時間の都合上回収できなかった場合、**その本数を最寄りの審判にその都度申し出ること。
→申告がなければ、回収したときに、的に刺さった矢よりも余分に射ったとみなされる恐れがある。